

第11回 小学校再編に関する地域住民説明会（櫛淵小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年8月8日（水） 19時開始
- 場 所 : 櫛淵公民館
- 参 加 者 : 20名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名
（事務局）
- 内 容 : 1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 教育委員会職員紹介
4. 配布資料確認
5. 説 明
①小学校再編に向けて
②小松島市立学校再編基本計画（案）
③学校施設の利活用
6. 質疑・応答（意見交換）
7. 閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○小学校を大体3校にする予定と言われたが、小学校校舎は建て直しではなく、今の建物を活用するのか。

→（回答）

どの小学校もやはり古いため、基本的には、再編とともに新しく更新をしていきたい。

○「実施計画（案）」が出る頃には3つ（校）の選定は決まっているのか。

→（回答）

学校再編の詳細については「実施計画」でというお話をさせていただいた。その「実施計画」の中にそういったことを（盛り込むよう）今現在は考えている。

○私の子どもが今1歳だが、今の段階で櫛淵で同級生が0人。1人ではかわいそうなので、はじめから分かっていたらもう小学校はそこ（統合校）に行かそうと思う。なくなる小学校があるところは親がそう考え、人口が極端に減っていくという問題点についてはどうお考えか。

→ (回答)

再編の具体的内容によっても左右されることになろうかと思う。場所の問題とかはいろいろとあると思う。原則論として「既存の学校敷地から」ということをこの「基本計画(案)」の中にお示ししているが、防災的な見地から、新しい場所も当然視野に入ってくるかと思う。再編の具体的内容によっては、少々フォローアップが必要なのかなと、今現時点では思っている。

○場所を決めるという話になると思うが、場所を決める際の「基準」はどうするのか。

→ (回答)

今のところは、大きなポイントとして、「災害に対してより安全性の高い場所」ということになろうかと思う。これは有識者会議の中でもいろいろ議論があった。既存の学校用地というのは、小松島市の地勢的な問題も多々あるかと思う。この「基本計画(案)」の全容は今ホームページで公開中だが、有識者の中でもハザードマップを載せてほしいという意見があった。既存の学校用地は意外と津波の浸水被害を受けるところが殆どということもあるので、そういったことも含めてどの場所が一番良いのか、まずは既存の学校用地から探っていきたい。より安全性の高いところがあれば、そこも含めてということなので、今のところ、学校の場所はポイントから言うと、「安全・安心の確保ができるような場所」が候補地になる。

○11 小学校の場所で再編することになった場合、それは発表前・後に住民向けの説明会がちゃんとあるのか。

→ (回答)

冒頭の「スケジュール」の説明でもお話したように、今現在も「基本計画(案)」で、まずは一つの考え方を作ってお示しをさせてもらっている。実施計画についても当然、「実施計画(案)」ということで、答えの案を持ってまたこういった11の説明会を当然させていただく予定であり、最後の出来上がりの状態でやはりこういった地域説明会でまた御意見を伺うことにはなろうかと思う。どうしても原案がなくては議論の内容に乏しいなということで、詳細の計画案ができた段階でも、また説明会を開催させていただきたいと考えている。

○幼稚園の統合の時もいろんな噂が流れ、11ある小学校の中に民有地があると。それに毎年多額の借地料を払っているということも言われたことがある。市の財政も厳しいから櫛淵は閉鎖の対象にあがっていくと言われた。今も市の財政は当然きついとは思いますが、再編というのはそういうことを全く無視することになるのか。

→ (回答)

いろんな事情が当然ある。借地料を払っている場所は他にも多々ある。基本的には借地の解消が一番理想になるが、「借地」だから再編するというのではなく、あくまでも今回、冒

頭で申し上げた計画の趣旨のとおり、子どもさんの数も減りますので、やはり切磋琢磨できる学校を作っていきたい。

それと、ここずっと榑渚小学校は子どもさんの数は少ないが、「少ないから再編する」のではなく、やはり小松島市全体で少なくなってくるのがこの「基本計画（案）」の大きな理由である。市内の子どもさんが公平で公正な教育を享受できるような学校教育、それと施設面も含めてというところが一番大きな趣旨と考えているので、御理解いただきたい。

○3校同時に開校という形になるのか。それとも、例えば中学校再編時の話のように、話が付いたところから随時やるのか。

→（回答）

冒頭、詳細は「実施計画」でという話をした。当初の平成24年度の学校再編計画には実施計画的なものではなかった。「地域の合意ができたところから」という計画の立て方にはおそらく「実施計画」はならない。学校再編は施設を作るだけではない。いろんなことでいろんな調整をしていかなければならないため、一度にはなかなかできにくい。

○榑渚と和田島と立江とどこかが一緒になり、新開小学校がその土台になる話ができているらしい、という話を聞いた。それは主婦の方々の噂話ということでしょうか。

それと、既存の小学校で防災や津波、土砂崩れの心配が全くない学校というのはない。新しい場所に移る時にそういう場所を踏まえてと言ったが、中学校が新しくなる時もそういう観点で新しい中学校を建てたのか。

→（回答）

1点目の話は、横にも（壁面等に資料「具体的な再編（案）について」を掲示）資料がある。これは昨年、有識者会議の開催時に、学校数が3校程度ならどうということが考えられるかを示す際に用いた。この「基本計画（案）」は3校程度ということで、中学校校区を中心に2校、3校、4校という原案。あくまでも、現存の敷地を使ってある一定の基準で統廃合を考えるならこういった形になるというもの。当然、新しい場所を考える必要があるかも知れないという中では、どこを中心にどういった学校にするかというのは御意見をいただきながら、最終的には「実施計画」で決めていくということにしかならないと考えている。

2点目としては、南中学校については、少なくとも場所の問題というのは多々あったと思う。南中学校の校区というのは、坂中と立中の両校区の中心的なところで、公共の用地もあったことからあのような選択になったのかなと思う。ただ、場所的にあのような場所なので、建物の中で防災対策を施していると。普通教室については、2階以上ということで、川に近いことについても施設で配慮している、というのが現状でなかろうかと思う。

○平成42年度までに例えば榑渚小学校と立江小学校が先に合併したり、3校にするまでに今ある既存の学校が先に何校かくっつき最終的に3校に減っていくような合併の可能性は

あるか。

→ (回答)

非常に現実的なご質問と思う。ただ、学校再編を「誰のため」という視点から言うと、「子どもさんのため」となる。そういった段階的な再編というのは、子どもさんにとってもやはりよろしくないのかなと思う。その都度環境の変化が起こるので、極力避けたいと今現時点では考えている。

○もし反対の場合、反対もできるのか。計画に榑渕町だけ入らないとか、全部の計画を止める力みたいなのは。コミュニティ、政治で…。

→ (回答)

何をもって反対かということがあろうかと思う。説明会は今日で11回目になる。少なくともこういった説明会に参加されている方の中には反対の方が絶対にいる。反対基準というのは非常に難しい部分があるが、まずご理解いただきたいのは、やはり私たち教育委員会は「子どもが第一、教育第一」という中でより良い教育を市内全域で築いていきたい、これが大きな趣旨であり、その趣旨を御理解いただきたいというのが今回の説明会の大きな趣旨である。

それと、部分的に反対であった時、地域的に反対であった時にどうなのかという話は、我々の立場から言えば、そういった地域の方にも御理解をいただきたいというのが、今現状思うところである。やはり地域性があり、地域によってはそういった御意見をいただく。ただし、地域の学校というのは分かるが、やはり教育という部分から言えば、市内にいる子どもさんに対しては一つのより良い教育環境を提供していきたいというのがこの学校再編の趣旨ということで、その辺についてはできる限り追及していきたい。

○人口減少とか、子どもの教育環境とかが一つの理由になっていたと思うが、人口が増加するパターンとかはないのか。最終的には進むと再編の方にやはりなるのかという感じ。いかに反対していいか分からない。

○小学校を小さくして少人数で。統合・合併は仕方がないと思うが、小さい施設で少人数を見るという計画はできないのか。

→ (回答)

子ども教育委員会が何を懸念しているかと言うと、少人数ではやはり限界があるだろうと。子どもさんの数が減っていけば、やはり複式学級になってしまう可能性がある。そうすると、教員・先生の配置とか、一定の配置基準がある中で先ほどからクラスの数とかそんな基準をお示しさせていただいているが、やはりある一定の規模は保ちたいというのを将来に向けて子ども教育委員会は考えざるを得ない、と現状では考えている。

○私は櫛渕で生まれ、子どもも櫛渕の小学校にやりたいと思っている。このままでは人口が減少するという話も聞くが、全国のニュースで、子どもを地域に取り込むためとか、新しい若い世代を取り込むために何らかのサービスをしている自治体があって、人口が増えてという話をよく聞く。小松島市の取り組みとして、そういう取り組みをしているか。

→ (回答)

市の取り組み、いろんな計画・施策をやっている。ただし、悲しいことに、小松島市だけでなく、徳島県全体の人口がどんどん減ってきているという現実がある。他所の自治体さんに比べてやはり財政が乏しい。市全体で見ると財政力が弱いということで、なかなかできていないところ、目に見える形では分からないところがあるが、市としてはいろんな事業、いろんな施策はやっているということで、まずは御理解をいただきたい。ただし、それにもかかわらずどうしても世の中、日本国中人口が減っているという中で、「教育」で何ができるかを考える中で、施設も含めて、いわゆる、再編によって一回そういった環境を作り直すということが大事なのかなあと、今現状は考えている。

○もし将来的に3校に統合になり学校が縮小されるとなれば、通学方法、スクールバスなどの通学支援は当然あると思うが、放課後の子の部活動とか、時間帯がどうしても生徒によって変わると思う。その辺も大丈夫なのか。

→ (回答)

通学支援については、今回の「基本計画」ではこういった基準でしか設定していない。詳しいこと(時間・ルート・乗降場所・便数・運行時刻)を具体的に決めていく必要が当然あるのかなと。ただし、その学校の状況と新しい学校ではどういったことをやるのかといったようなことを含めて具体的に決めていくことになろうかと思うが、現状では、場所とかそういったことは何も決まっていないので、少なくとも計画ができ、その開校までの間にこういったことはどんどん詰めていくことになるのかなと思う。

○南中校舎(施設)内の安全という話だったが、あの時はちょうど東北の震災の関係があったので、あの場所は殆どの親(当時の現役の保護者)が反対していた。当時、私も参加した設計の説明会では、施設内の2階以上に入っていたら大丈夫だという説明を受けた。設計の方も実際にそういうことをおっしゃった。では、過去あそこに、過去の南海トラフ地震でどのくらいの高さまで水が来たのか聞いたら、「そんなの知りません」と言われた。それと、漂流物に対してその校舎の窓の外壁は強度を増しているのだから、漂流物来ても全然大丈夫だと言われた。では、どういう漂流物を想定しているか聞いたら、答えは返って来なかった。申し訳ないが、今回はそういうことも言えるようお願いしたい。

○この櫛渕小学校で子どもがお世話になって本当に素晴らしかったと思う。地域とのつながり、住民とのつながり、人数は少なくとも複式になるような感じでありながらも、学校全

体が兄弟のような家族のような中で教育を受けてきたと思う。担任の先生方も大変だったと思うが、そういう中で素晴らしい教育を受けたと痛感する。

櫛淵は人数が少ないから人数の多いところへ移転する可能性が多分にあることを危惧するが、今現に櫛淵から南中学校に通学している生徒さんを見ると、大変だなというのを目の当たりにする。スクールバスの運行なんかも考えられているようだが、乗せたり降ろしたりに保護者が行くとか、また教職員の方の手間を取らすとか。津波とか想定外のことが現に日本のあちこちで起こっている。津波とかが来た場合、櫛淵ならすぐ近くの山に逃げられる。市内の他にそういうところがあるのかなと思ったりする。